

1. 評価結果概要表

平成19年 10月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2072600444		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム グレイスフル日義		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義2752-1 (電話) 0264-26-1211		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(19年 9月 14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤10人	非常勤2人 常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~42,000(30日) 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (9月 14日 現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1名	要介護2	10名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82.4 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長野県立木曾病院・木曾ひよし診療所・ゆうあい歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人サン・ビジョンを母体に持ち、早開設4年目を経過し、すでにISOの取得を得てケアサービスの質の向上に取り組まれる体制が確立しております。なお昨年12月には1ユニット増築し2ユニットになりホーム機能もより一層充実しています。また併設のデイサービスセンターとの日常的な連携により地域の方々とのふれ合いが図られています。運営推進会議も2ヶ月に1回着実に開催し、地域の方々の協力を頂き、課題に取り組まれ検討を重ねております。地域密着型サービスとしての理念を基に職員全員が明るく尊厳を大切にして入居者本位のケアを目標に日々研鑽を積まれております。入居者の方々もホーム内に役割を見出し活き活きと過ごされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎食後の口腔ケアが実施されている。地域密着型ホームへの位置付けにより地域の方々にも参加頂き、運営推進会議も定期的に開催されている。また職員による認知症予防教室等の地域出前もありホーム機能が理解されつつあります。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義や目的を伝えられており、自己評価に職員全員で取り組まれている。日頃提供しているサービスの中に気づきを見出し、見直しの機会としてとらえている。</p>
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域密着型サービスの提供に当たり地域に開かれたホームを目標に取り組まれており、運営推進会議においてホームの事業報告書や事業計画書等を用い概況説明を行うと共に、ホームの中で重要課題である防災について地域の協力体制が得られるよう議題に上げ参加者より意見や質問等を受け話し合いが行われている。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に管理者より市町村の苦情窓口の説明をされると共に運営推進会議出席のりやご家族面会時に気軽に意見をだせる場面づくりに配慮されている。またご家族には毎月の請求書発送時にお便りを同封されたり、電話による連絡も取られている。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園との交流や毎月地区で行われているサロンにおいて、管理者が認知症予防教室を開催し交流を図られている。また日常的には買い物や散歩・回覧板を回したりと地域の方々との挨拶や、コミュニケーションを持たれている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは社会福祉法人を母体にもち法人の理念や目標をそのまま活用されている。	○	地域密着型サービスとして何が必要か、日々の方針や目標に具体化された内容が組み入れられたホーム独自の理念の構築が望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と理念を共有し、朝礼にて理念を唱和して職員の意識の向上を図り、ケアの質の向上に取り組まれている。なおホーム内の見やすい位置に理念を掲示し、日々確認をされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園との交流(年数回)や地域の運動会、地区サロン(月1回)等に参加されている。さお地域の文化祭に入居者の作品を持って参加される旨を伺った。	○	今後更に地域の方々との交流を積極的に図り、ホームへの理解を頂くために継続的な取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義や目的を会議時に話し合わせ伝えられている。なお外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて検討しサービスの質の確保に活かされるよう取り組まれている。(評価により日頃の対応の中に気づきを得られ、その後のサービスに反映されていることを伺った)		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現況報告を理解を頂くと共に、検討議題や懸案事項等について話し合わせサービスの向上に繋がる取り組みが行われている。(運営推進会議について、18年度事業報告・19年度事業計画について、防災、ホーム食事について等)		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日義支所担当職員に相談掛けをし、確認を図る等の連携を取られている。なお地区サロンにおいて認知症予防教室の市町村事業を積極的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの生活場面や異動職員の写真を撮りホームたよりに載せ、月1回入居者のご家族に送られている。また利用明細書を毎月送付し、半年ごと確認のサインを頂かれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の満足度調査を行い、サービスの質の向上に反映される取り組みがされている。またご家族訪問時にケアプランを提示等必要時には電話連絡もされている。なおご家族の意見・要望等の表出に配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの方針として職員を固定化し、顔なじみの職員が対応できる体制づくりに配慮がされている。しかしやむを得ず職員の異動や離職に至った折には引継ぎ等に最善の努力をされている事を伺った。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の多くの研修に職員が交替で参加され、報告書を提出しその都度研修報告会が開かれている。報告会やミーティングにおいて研修内容について検討し、ホームのサービスの質の向上に活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同母体で運営されている多くのグループホームとの交流は図られているものの、他事業所との交流や連携の取り組みが行われていない。	○	管理者は他事業所との交流や必要性を理解されている。現在近隣には同業者が無いが、職員を県内にある他ホームでの研修を試みるにより、自分達の取り組みを見直したり、良い点を取り入れることでサービスの質を一層高められるよう期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用にあたり本人、ご家族にホームに可能な限り訪問していただき、入居者や職員と馴染みの関係が持てるかとの見極めと、徐々にホームに馴染み安心と納得して利用できるよう支援が行われている。なお入居後もご家族に面会を呼び掛けられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は共に過ごしあえる仲間と言う意識を持って、職員は日頃サービスの提供に当たられている。入居者が穏やかに生き活きと生活ができるよう、役割の場面づくりへの配慮がされている。(職員は日頃から入居者のつぶやきを傾聴しサービスに反映されている)		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者への声掛けや日常の会話の中より入居者の思いや意向を汲み取り、入居者の希望に副った支援に向け努力をされている。なお意思疎通が困難な入居者については、ご家族や職員で情報交換をし、意向に副った支援ができるよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス時に各職員の意見集約をされると共に、入居者、ご家族の意見が反映された入居者本位の介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行われている。しかし入居者の心身の状態に変化が生じた場合、入居者、ご家族の要望を取り入れ、その都度検討し見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方よりのご家族の要望により、入居者と同室で宿泊できる支援が行われている。	○	当ホームでは他にも事業を行っていますので、それらの事業を有効に利用したり、設備を有効に活かした取り組みの支援に期待します。

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や入居者のかかりつけ医の診療が受けられるよう配慮がされている。必要に応じ往診や特変時の職員対応による受診の際、医療機関に繋げる等の配慮もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については契約時に利用に当たっての条件(専門的な治療・療法・看護等を常時必要としない)が提示されて、状態に変化があった時にはご家族、主治医、職員等により話し合わせ、情報の共有を図り適切な対応が出来る施設や医療機関へ繋げている。	○	終末期を迎えた入居者やご家族がターミナルケアを希望した時には、希望に添える適切な対応が取れるように条件整備を図ったり、職員間でケアの方針を共有されるように期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々の関わりの中で接遇についての促し等、プライバシー保護の徹底や個人情報保護法の理解に努め、全職員に徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作られているものの、入居者の身体状況や本来持っているペースに合わせて日常生活が送れるよう柔軟な対応がされている。	○	本人のペースを尊重された対応に配慮が見られませんが、なお一層個別性のある支援の継続に期待します。

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は食事の準備から片づけまで意欲的に参加され生き生きとした姿が見られた。食事時介助が必要な入居者には、職員が寄り添い、声掛けをされる等の配慮があり楽しく会話をしながら食事をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が希望する時間帯に、入居者の希望に副って毎日入浴されている。	○	現在は夜間入浴希望の入居者がいないことをお聞きしました。今後夜間希望があった場合に対応できる体制を整えられることを望みます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園で夏野菜の植え付けや収穫を楽しんだり、気の合った入居者同士が声かけあいながら手際よく食事づくりをされていた。なお入居者の希望に副った外出支援も行われている。	○	ADL低下傾向にある入居者の役割や場面づくりが難しくなっており、今後職員、ご家族と共に話し合い、楽しむことの出来る場面づくりを模索していかれることを望みます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人ひとりの希望に副って買い物、ドライブ、外食等の支援がされている。なお散歩や地域の行等に参加されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを認識しており、日中は鍵をかけていない事を伺った。訪問当日には鍵はかけられていなかった。		

グループホームグレイスフル日義

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で毎月消防訓練が行われている。運営推進会議で行政や地元消防団による避難経路の確認等の協力が得られている。なお地域組長を通して地域の方々にも協力が得られるよう働きかけがされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の一人ひとりの食事量確認チェックシートを作成し、入居者の状態を職員間で共有されている。また不定期ではあるが栄養士や管理栄養士のアドバイスを受けられている。	○	栄養士又は管理栄養士に週間献立表により定期的に個別(身体状況に応じた)の栄養バランス等のチェックや水分摂取について確認されることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとしていて大変明るく入居者は2ユニットを自由に行き来されている。「又来ました。どうぞどうぞお掛けください等」大変明るい雰囲気が見られると共に、気になる嫌な臭いや空気の淀みは感じられない。窓の外には徐々に紅葉が始まった山々が望め季節感を楽しむことができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ思い思いの馴染みのある品々(タンス・ベット・位牌・家族写真・生活用品等)が持ち込まれ安心と安らぎが得られる居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。